

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 十日町市立飛渡第一小学校
(※正式名称を記載)

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒949-8618

十日町市中条戊2033-1

E-mail tobitari1-els@edu.city.tokamachi.niigata.jp

Website http://www.edu.city.tokamachi.niigata.jp/els/tobitari1/

幼児児童生徒数 男子 7 名 女子 6 名 合計 13 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「ふるさと環境学習」を活動テーマとして、ESDを地域の豊かな自然と文化・伝統を守り残していく子どもたちを育てる教育と捉え、ESDの実践を通して地域の自然と文化・伝統の魅力を体験・体感し、大切にしていこうとする子どもの育成を目標とした。

具体的には、「自然から学ぶ」、「文化・伝統から学ぶ」を柱に、①飛渡川に係わる活動、②栽培活動と食育に係わる教育、③ブナ林に係わる活動、④わら細工に係わる活動を行った。

① 飛渡川に係わる活動

学校の前を流れる飛渡川をフィールドに、そこに棲息する生き物を調べ、きれいな水に棲息する生き物が多いことが分かった。地域の方々の協力で魚の手づかみをしたり、焼いて食べたり、川のプールで遊んだりした。また、今年度は、6年生が理科の学習と関連づけ水力発電の仕組みについて学習した。川に水車を置いてモーターを回すことで、発電されることを学んだ。

鮭を飛渡川に呼び戻すために、卵から飼育し飛渡川に放流する活動を行っ

た。漁協の方から、積算温度によって卵の孵化が始まることや、餌をやり始めることを学んだ。

②栽培活動と食育に係わる教育

年間を通して、米、サツマイモ、ポップコーン、大根などの作物を栽培した。米の栽培では、田植えから販売までの活動を行った。地域の方からお出でいただき一緒に活動する中でたくさんのかかわりをもつことができた。

大根の収穫後、「収穫感謝の会」を行いご協力いただいた地域の方々を招待し、おでんを作ってもてなした。おでんを作るに当たって、給食センターの栄養士さんからお出でいただいて学び、昆布と鰹での出汁の取り方を学んだ。

他の作物も収穫後、様々な料理の食材として利用し、自分たちが育てた作物をおいしくいただいた。

③ブナ林に係わる活動

地域にあるブナ林に出かけた。講師に自然観察指導員さんにお出でいただき、指導していただいた。道中の様々な植物を観察したり、山菜と採ったり、鳥の鳴き声を聞いたり、春の里山を満喫した。ブナ林では、枯れ葉の上をソリで滑ったり、秘密基地を造ったりした。周りに落ちている枝を組み合わせて柱を立てたり、屋根を作ったりする活動に没頭した。

ブナ林は、地面にたくさんの水を蓄え、気温が低くなっていることを体感することができた。

④わら細工に係わる活動

米作りでできたわら。そのわらを使って草履やわらじ作りを行った。地域の経験者を指導者にお招きし、地域のお年寄りからも一緒に参加していただいた。まずはわらを絢う作業。そして、その縄を使って草履やわらじに編んでいく。子どもたちはお年寄りとかかわり合いながらわら細工作りの活動を進めていた。出来上がった草履やわらじに大満足していた。このわら細工の技術が子どもたちに少しでも残ることを願っている。

① 飛渡川での生物調べ



② 田植え



③ ブナ林で基地作り



④ わら細工作り わら絢い



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ウェブサイト ・ユネスコスクール公式ウェブサイト ・カワナビー国土交通省 ・川の生き物一覧 書籍 ・きみにもできる国際交流 インドネシア

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのよう

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校は、全校児童13人の極少人数学校である。また、2・3年生学級と4・6年生学級の飛複式の2学級である。そのため、「ふるさと環境学習」の活動を生活科、総合的な学習の時間の年間指導計画に位置付けている。

今年度は、ブナ林活動と栽培活動は2年生、飛渡川活動と米作りは3・4年生、わら細工と国際理解教育(インドネシア共和国学校との交流)を6年生が主になって行っている。

また、毎年同じ活動が行われてもいいように、学年部毎に役割分担や作業内容、活動内容を明確にして行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

各学年は、「ふるさと環境学習」の主になって取り組むテーマについて、調べ学習を進めるようにしている。そして、極少人数のために田植えやわら細工作りなどの体験的な活動は、全校で行うことができるように、指導計画に位置付けて実施している。

また、地域の方との連携を密にして、学校と地域とが一緒になって活動できるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

「ふるさと環境学習」を学校経営の中核にすえ、学校評価にその価値を問う項目を入れた外部評価を行っている。保護者や地域の方から、学校が取り組んでいる「ふるさと環境学習」の取組は、この地域の魅力を生かしたとても意義ある取組で、今後も継続してほしいとの声が多かった。しかし、全校で行う活動も多くたくさんの時間がかかり、今後、精選が必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の発信方法として、学校だよりと学校ホームページを活用している。

十日町へ移住することを考えている方が、情報ツールとして当校のホームページを見て、移住先の一つに候補としていたことが分かった。ホームページで発信することで地域の魅力を世界に発信できた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

「ふるさと環境学習」の取組を進めるために、最も連携を強めているのが飛渡公民館である。公民館事業と学校の活動をかかわり合わせることで、互いがWIN-WINの関係になっている。また、職員数が少なく、準備に人手が足りないところを濃実会や後援会の方々から支援していただいている。

今年度は、飛渡川活動に発電の学習も取り入れたので、信濃川発電所の方からも協力していただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流は、行っていません。

今後他のユネスコスクールと交流するために、学校ホームページに取り組んでいる活動できるだけアップするように心がけてきた。また、極少数のユネスコスクールとの交流を模索し、同じ規模の学校での活動の成果と課題について話し合っていきたい。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

田植え・稲刈り、わら細工など、毎年同じ活動を行っている。1年生の時から6年間、学年に応じた作業を行うことで、技術を身に付けてきており、上手に作業を進めることができるようになってきている。

ユネスコス쿨の活動を行うことで、子どもたちと地域の方とのかわりが増え、他者（大人）とのコミュニケーションが上手にとれるようになってきている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

「ふるさと環境学習」の主な活動は、「飛渡川にかかわる活動」「ブナ林にかかわる活動」「栽培活動」「地域の文化・伝統にかかわる活動」である。

30年度の学級編成は、1・3年生学級と4・5年生学級の2学級の予定である。生活科と総合的な学習の時間に「ふるさと環境学習」の活動を位置づけていく。

1・3年生・・・ブナ林活動 栽培活動

4・5年生・・・飛渡川活動 地域の文化・伝統

また、今年度と同じように、田植えや稲刈り、わら細工などの活動は、全校で取り組めるように、年間計画に位置づけていく。